

2023年度日本数学会賞建部賢弘賞受賞者の横顔

2023年度日本数学会秋季総合分科会にて、2023年度日本数学会賞建部賢弘賞が、特別賞3名、奨励賞5名に贈られました。

受賞者については、『数学通信』第28巻3号の会報191でお知らせいたしました。建部賢弘賞は1999年度より特別賞、奨励賞の2部門となりました。受賞者の方々の紹介として、ご本人からプロフィールを数行書いて頂き、写真と共に掲載しています。

(五十音順、敬称略、所属は受賞時点のものです。)

特別賞

越川皓永 (京大数理研助教)

業績の題目：数論幾何学におけるコホモロジーの研究

これまで純モチーフ、 p 進 Hodge 理論、 $K3$ 曲面、志村多様体と様々な研究をしてきました。最近は進展の著しい Langlands 対応にさらに力を入れています。研究中のものも含め、多くの共同研究者にも恵まれてきました。加藤和也先生をはじめとしたお世話になった方々もあわせ、この場を借りて皆様に感謝申し上げます。

谷口晃一 (東北大材料研助教)

業績の題目：ベゾフ空間上の作用素解析

これまでベゾフ空間論や作用素解析について研究を行い、非線形偏微分方程式の研究などに応用してきました。この度は、このような名誉ある賞をいただき大変光栄です。この場をお借りして、ご指導してくださった先生方、日頃よりお世話になっている方々に感謝申し上げます。

角田謙吉 (九大数理准教授)

業績の題目：格子気体の流体力学極限および大偏差原理の研究

私は相互作用粒子系、とくに流体力学極限とよばれるスケール極限に興味を持ち、研究を進めてまいりました。この度は大変名誉な賞をいただき身に余る光栄に存じます。今回の受賞は日頃よりお世話になっている皆様のお力添えあってこそと感じております。この場をお借りして、私に関わりのある皆様に深く感謝申し上げます。

奨励賞

河上龍郎（京大理助教）

業績の題目：正標数の代数多様体

私は正標数の代数多様体を微分形式の観点から研究しております。この場をお借りして、ご指導いただきました先生方、支えて下さった方々に深く感謝を申し上げます。今回の受賞を励みに、より一層研究に邁進してまいります。

坪内俊太郎（東大数理博士後期課程／東大教養 TA）

業績の題目：摂動特異楕円型方程式に対する正則性理論

私は摂動特異方程式の正則性について研究を行ってきました。基本的な不等式評価を注意深く用いると全く非自明な正則性が引き出せる、という面白さに熱中して早数年。このような大変名誉ある賞をいただけて、身が引き締まる思いです。正則性理論の世界へと誘ってくださった儀我美一先生に心より感謝を申し上げます。

濱口雄史（阪大基礎工助教）

業績の題目：確率ヴォルテラ積分方程式および関連した確率制御問題の研究

この度は名誉ある賞を賜り光栄に存じます。私の専門は確率論で、特に確率ヴォルテラ積分方程式の理論研究や確率制御問題への応用について研究してまいりました。私の研究生活に関わってくださっている方々に感謝申し上げます。今後も確率論をはじめ数学の発展に貢献できるよう努力してまいります。

松坂俊輝（九大数理助教）

業績の題目：調和マース形式、モックモジュラー形式に関連する数論の研究

この素晴らしい賞をいただき、大変光栄に思います。モックモジュラー形式はラマヌジャンに起源を持つ古典的な対象ですが、温故知新というべきか、現代でも多様な視点から活発に研究が進められています。これまで支えてくださった家族、友人、先生方への感謝の気持ちを忘れず、今後も挑戦を続けていく所存です。

村山拓也（九大数理助教）

業績の題目：小松・レヴナー発展の研究

この度は栄誉ある賞にお選びいただき、誠に光栄に存じます。大学院の指導教員である日野正訓先生をはじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。私は確率論と函数論との繋がりに関心を持っており、レヴナー方程式は興味深い切り口だと考えております。今回の受賞を機に、研究をさらに深めるべく励んでまいります。